

### 東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアーが奥出雲町へ



▲フラッグの引継ぎの様子

全国の都道府県を巡回する東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーが奥出雲町に来ました。4月7日から12日にかけて町内の施設で、オリンピック・パラリンピックの象徴である旗の展示を行いました。

11日にはフラッグ訪問イベントが行われ、三成小学校5、6年生が出席し、オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを引継ぎました。児童たちは2年後に迫るオリンピック・パラリンピックを身近に感じる機会となりました。

### 奥出雲町指定天然記念物を指定 「雲崎のインヨウチク自生地」



▲雲崎のインヨウチク

奥出雲町教育委員会は、新たな奥出雲町指定天然記念物として、阿井地区にある「雲崎のインヨウチク自生地」を指定しました。

インヨウチクは、タケとササの中間的な特徴をもった珍しい植物で、雲崎のインヨウチク自生地は、以前からその存在は知られていましたが、このたびの調査により、本種は全国的に見ても生息地が限られ、まとまった数の個体が生息する自生地も少ないと考えられるため、町の重要な天然記念物として新たに指定することになりました。

### 夢の実現に向けて新生活スタート 島根リハビリテーション学院入学式



▲誓いの言葉を述べた石田さん

4月8日、島根リハビリテーション学院の入学式が行われ、理学療法学科に26人、作業療法学科に23人が入学しました。

新入生を代表して理学療法学科の石田雄介さんが「4年間を通して必要な知識、技術だけでなく、問題解決能力、リーダーシップを身に付けた理学療法士、作業療法士になれるよう努力したい」と誓いの言葉を述べました。

それぞれの希望を胸にこれからの学生生活を奥出雲の地で過ごされます。

### 光溢れる 奥出雲の春を満喫

## 第4回 奥出雲ウルトラおろち100km遠足

とおし



▲100kmの部スタート

町内の全地区をコースとした全長100kmを走り抜ける「第4回奥出雲ウルトラおろち100km遠足」が4月14日に開催されました。

今大会は100kmの部に510人、60kmの部に150人、60kmリレーの部に16チームが参加しました。

100kmの部は夜明けとともに役場横田庁舎前を、60kmの部とリレーの部は今年から役場仁多庁舎前を出発し、ゴールの役場横田庁舎を目指しました。

アップダウンの激しいコースや昼夜の気温変化、加えて午後からは激しい風雨に遭遇し、これまでにない過酷な大会となりましたが、参加者は力を振り絞り制限時間となる午後9時までに498人と16チームが完走しました。

参加したランナーはコース内に設けられた各エイドステーションで振る舞われた奥出雲の食に舌鼓を打ち、当日の悪天候にも負けず力強くゴールを目指しました。

沿道では各世帯に配布された応援旗を振りランナーに声援を送る姿が町内各地で見られ、大会を一層盛り上げました。



▲ランナーはタイム計測を忘れずに



▲エイドの様子



▲60kmの部とリレーの部スタート



▲笑顔でゴール

### 豊かな自然を満喫

新緑の季節となり、町内の山開きシーズンとなりました。大型連休中は多くの登山客で賑わいました。



#### 船通山カタクリ登山

船通山山頂付近では、4月の中旬から見頃を迎えたカタクリの群生を鑑賞する登山客で賑わいました。

#### 鯛ノ巣山新緑登山

5月4日、山開き安全祈願祭が行われました。神事の後に行われた登山では、新緑を楽しみながら頂上を目指しました。



#### 玉峰山しゃくなげ登山

4月29日、玉峰山の山開き安全祈願祭と登山が行われました。下山後には山菜の天ぷらが振舞われ、春の味を堪能しました。



#### 国の名勝・天然記念物 鬼の舌震川開き

鬼の舌震で4月26日、川開き安全祈願祭が行われました。地元関係者など15名が出席し、シーズン中の安全と観光振興を祈願しました。

祈願祭の後、三成幼稚園児23人が大馬木川にヤマメを放流しました。

また、この日は晴天に恵まれ、観光客が多数訪れ、新緑を楽しむ姿がみられました。



▲ヤマメを放流する子ども

#### 平成30年度自治会長会を開催

4月8日、役場仁多庁舎において、平成30年度自治会長会を開催しました。

はじめに、今年度の自治会長を代表して、三沢地区・堅田自治会長の景山淳さんに委嘱書を交付しました。

会では、町執行部から今年度の主要施策、予算、事業日程の説明などを行いました。

6ページには、自治会長会連合会の役員構成を掲載しています。



▲委嘱状を受け取る景山さん